



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第38号

目次

- 3プログラム JABEE認定
- 岡三ホールディングス（株）と産学連携推進に関する包括協定を締結
- 「三重大学振興基金」発起人会開催
- 電気通信自由化20周年記念講演会
- 中華人民共和国広西医科大学と学部間協定の締結
- 学生の授業評価アンケートに基づく表彰式開催
- 教育改善のための国際シンポジウム・ワークショップを開催
- タマサート大学科学技術学部長が来訪
- 第5回産学官連携推進会議

3プログラム JABEE認定



写真左から 天野生物資源学部長、加藤工学部長、水谷教授、加治佐教授、関口教授、豊田学長、山田理事

本学の工学部機械工学科〈機械工学科プログラム（プログラム責任者：水谷一樹教授）〉と生物資源学部生物圏生命科学科〈生物圏生命科学技術者教育プログラム（プログラム責任者：関口秀夫教授）〉および同共生環境学科地域保全工学講座〈農業土木プログラム（プログラム責任者：成岡^{はじめ}市教授）〉が日本技術者教育認定機構（JABEE）による技術者教育プログラムの認定を受けました。この認定により、上記プログラムが国際的に通用する技術者教育プログラムであることが保証されたこととなります。また、プログラムの修了者は日本技術士会への登録により技術士の1次試験を免除され「技術士補」の資格が得られます。

岡三ホールディングス（株）と産学連携推進に関する包括協定を締結

本学は6月5日、岡三ホールディングス（株）との間で産学連携推進に関する包括協定を締結しました。調印式は、三翠会館において豊田学長、加藤取締役会長をはじめ関係者の出席のもと執り行われ、引き続き記者会見が行われました。今後は連携協議会を立ち上げ、経済・金融動向等のテーマの受託研究、県内新産業創出のための学際的研究、インターンシップ、人材交流および地域社会の発展などに連携して取り組むこととしました。また、調印式には「産業振興を目指す三重県の政策とも合致する動き」として初めて、野呂三重県知事に立ち会っていただきました。



写真左から 岡三ホールディングス（株）加藤取締役会長、野呂三重県知事、豊田学長

「三重大学振興基金」発起人会開催

国立大学法人化に伴う競争的環境激化に対応し、学生への奨学金や就学環境整備、インターンシップ活動、国際交流および地域貢献など戦略的投資を行うための「三重大学振興基金」が3月に創設され、6月5日には産業界や県内主要団体代表者、本学関係者および同窓会代表者ら総計21名の参加により、募金活動の支援や事業の円滑な進展を図るための発起人会議が開催されました。学長の挨拶に引き続き、発起人を代表して野呂三重県知事、田村三重県商工会議所連合会長から力強いご支援の言葉をいただいた後、基金制度や今後の募金活動方針について趣旨説明および意見交換が行われました。今後、発起人会にご支援頂きながら、基金の管理運営や事業の推進に努めていく予定です。学内教職員におかれましても、ご協力方よろしく申し上げます。

電気通信自由化20年記念講演会

総務省東海総合通信局主催の標記講演会が、6月9日に「アストホール」で開催されました。東海総合通信局情報通信部長の清水氏の挨拶に続いて、本学亀岡副学長が「ICTを活用した地域の活性化」と題する基調講演を行った後、亀岡副学長をコーディネーターとして、シャープ亀山AVC液晶事業本部ITシステム推進室長の塩路光昭氏、(社)日本ケーブルテレビ連盟東海支部三重県協会会長の中子統雄氏、NTT西日本三重支店営業企画部長徳山勝則氏をパネリストとするパネルディスカッションが行われました。



中華人民共和国広西医科大学と学部間協定の締結

医学部は6月6日、中華人民共和国の広西医科大学と国際交流協定を締結しました。同大学は、1934年創立、広西省南寧市にあって、中国の中では比較的早く大学となった医科大学の一つです。調印式には黄光武学長他4名が訪れ、調印書署名後、一行は病院内等の施設を見学しました。今後は両大学の研究者間で、学術交流が活発に行われることを確認しました。



学生の授業評価アンケートに基づく表彰式開催

生物資源学部では、5月10日の教授会において、学生評価の高い授業を行った教員に対する表彰式が開催され、天野秀臣学部長から表彰状が手渡されました。表彰の対象となった授業〈講義部門（生理活性化学と生物有機化学：稲垣 稔助教授、水理学：加治佐隆光教授）、実験・実習部門（生物有機化学実験：稲垣 稔助教授）〉は、平成17年度の後期に行われた学生授業評価アンケートの総合満足度の平均点を用いて選考されたものです（講義103科目中、同点であった講義の3科目と、実験・実習26科目中、最も点数の良かった1科目）。なお、この表彰制度は同学部の教育改善活動の一環をなすもので半年毎に行われており、今回で2回目となります。

教育改善のための国際シンポジウム・ワークショップを開催



5月26日-27日の両日、高等教育創造開発センターと大学院医学系研究科の共催により、「Problem-based Learning実践の方法論」に関する国際シンポジウムとワークショップが開催されました。この催しは、本学が全学的な教育改善活動の中心として推進する、問題発見解決型学習（PBL）について、教職員が理解を深め、実践を支援するために開催されたものです。米国デラウェア大学ではこのPBL教育に全学を挙げて取り組んでおり今回は同校からデボラ・アレン準教授を招聘し、豊富な実戦経験に基づく具体的なノウハウが紹介されました。参加した教員からは、大変有意義であったとの感想が多く、本学の教育改善活動に資する機会となりました。

タマサート大学科学技術学部長が来訪



5月29日にタイ・タマサート大学科学技術学部のソムチャイ・ピリヤユダコーン学部長、チャイナロン・エンカグル国際交流副学部長、コンサク・カチョンパドゥンキティ学術担当副学部長、ソムチャイ・チャカトラカン国際交流アドバイザーが本学を訪問されました。学長、副学長との会談後、ソムチャイ学部長から、平成17年度日本学生支援機構奨学生としてタマサート大学に留学していた谷 明子さん（生物資源学研究科）に留学修了証が贈られました。学部間協定を結んでいる生物資源学部では、天野学部長をはじめ国際交流、学務関係委員との学生交流や共同研究の推進に向けた意見交換が行われました。また、一

行の訪問に合わせて本学学生のタイ留学報告会が開かれ、チャカトラカン国際交流アドバイザーによるタマサート大学の国際教育プログラム紹介には60名を超える院生・学生が熱心に聞き入っていました。

第5回産学官連携推進会議



内閣府などが主催する標記会議（<http://www.congre.co.jp/sangakukan/>）が6月10-11日に国立京都国際会館で開催されました。この会議は日本の産学官連携の方向性が示される重要な場ととらえられ、産学官連携の推進を担う第一線のリーダーや実務経験者等を対象に、具体的な課題について、研究協議、情報交換、対話・交流・展示等の機会が設けられています。全体会合においては、本学の事例も掲載されている「産学官コーディネーターの成功・失敗事例に学ぶ-産学官連携の新たな展開へむけて」（編集委員：松井 純 文部科学省産学官連携コーディネーター・創造開発研究センター）の発刊が紹介されました。また、「展示の部」において、「みえの産学官は三重奏」というテーマのもと、企業との共同研究によって生まれた新商品や、自治体との連携で進められているプロジェクトなどを紹介し、多くの来場者が新商品の体験を楽しんだり熱心に情報交換を行ったりする姿が見られました。



投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。亀岡孝治 (vpri-info@mie-u.ac.jp) または井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》編集責任者/理事・副学長 渡邊梯爾